

∞ インド古典音楽演奏会 ∞

時に瞑想的に、時にリズムカルな演奏を即興で繰り広げるインド音楽。
非常に珍しいインドの胡弓「サーランギ」と、打楽器「タブラ」による
インド伝統の即興演奏をお届けします。



サーランギ

1本の木をくりぬいて作られるインドの弓奏楽器。主奏弦は3本のガット弦(羊などの腸を結って作る)で、その他に約35本の共鳴弦を持ち、残響豊かな音が特徴。人の声に最も近い楽器と言われ、踊りや声楽の伴奏においても重要な楽器だが、調律に手間がかかることや難易度の高さから、インドでも奏者は比較的少ない。



タブラ

高音、低音を出す大小二つの太鼓を一組とした、インドを代表する打楽器。木と金属の胴体にヤギの革が張られ、そこに穀物と金属の粉を混ぜ合わせた黒い塗り物がつく。指を駆使して叩き、叩いた場所や叩き方により様々な音を出すことができ、その組み合わせにより非常に複雑な演奏が可能となる。インド音楽や舞踊において欠かせない楽器。



西沢信亮〈サーランギ〉

アジアを旅していた2007年、デリーにてサーランギの巨匠 Ustad Sabri Khanの弟子である Mohd.Nasir Khanに師事。インド古典音楽の演奏を中心に、ソロをはじめ、声楽、舞踊の伴奏などの活動を行う。2013年、半年にわたり渡印し、インド各地の演奏会に出演するほか、デリーのサーランギ奏者の取材活動を行った。



宮木修平〈タブラ〉

2003年タブラに出会い、2005年よりU-zhaan氏のもとでタブラを習う。インド音楽演奏の他、異なるジャンルの音楽とのセッションなど、少しずつ幅を広げつつ活動中。

※予約は下記までお願い致します。

神保町にある大衆割烹

和亭なにわ

地下鉄・神保町駅 A5出口 徒歩4分

千代田区神田神保町一丁目34 弘報社ビル1F

03-3295-9358

naniwa@mbp.ocn.ne.jp